

ふくしま食・農再生戦略関連情報

お米作りを体験!! ～うつくしま田んぼの学校～

「うつくしま田んぼの学校」は、古くから営まれてきた、田んぼや水路、ため池、里山などを遊びと学びの場とし、米作りなどを通して、農業や農村、環境について、子供たちに理解を深めてもらうことを目的に実施しています。

相双地方では、富岡町立富岡第二小学校の3年生69名を対象に、5月25日に田植えを行いました。児童は初めての田植えに大喜びで、中にははしゃいで転ぶ子供もおり、泥んこになりながら田んぼの感触を満喫していたようです。

今後、草取り、稲刈り、脱穀、学習発表会(収穫祭)などを予定しており、子供たちは今年12月まで、地域の応援団(大原地区邑づくり推進協議会)の方々に指導をいただきながら、米作りについて学んでいくことにしています。

(農村整備部)



田植えの様子

集落営農関連情報

水稲直播栽培の導入による 新たな営農の取り組み

飯館村では、集落ぐるみ型による多くの集落営農組織が設立され、各種の支援策を活用して組織運営に取り組んでいます。

近年、農業者の高齢化等により、離農する農家が出てきていますが、集落営農組織を設立している集落では、耕作放棄地を解消するため、荒廃が懸念される水田を組合員が引き受け営農を行っています。

これまでは、所有する水稲育苗ハウスの規模により引受面積が制限されていましたが、水稲直播栽培の導入により、育苗ハウスの規模に影響を受けずに稲作を継続することが可能となり、遊休農地化を防いでいます。

更に、空いた育苗ハウスで、村の振興作物であるブロッコリーの育苗を行い、ブロッコリー栽培面積の拡大にも取り組んでいます。

(農業振興普及部)



水稲直播機による播種



水田転作によるブロッコリーの栽培

食育・地産地消関連情報

「実は、あの有名なお菓子の産地だった?!」 ～南相馬市産じゃがいも(加工馬鈴薯)～

大人も子どももみんな大好きな「じゃがいも」。南相馬市は、県内でも有数のじゃがいもの産地です。ここで、生産されたじゃがいもが、ある有名なお菓子に変身していることをご紹介します。

南相馬市では、約30年前から転作作物として「加工馬鈴薯」が栽培され、ポテトチップスなどのお菓子で有名な「カルビーポテト(株)」との契約栽培に取り組んでいます。

お菓子の原材料といえば、国外産と思われがちですが、カルビーポテト(株)では、防疫上の理由などから国産の原材料を求めており、年間を通して加工馬鈴薯を入手するために全国各地に設けた生産拠点の一つが南相馬市なのです。

栽培されている品種は、「トヨシロ」といい、油との相性が良くポテトチップスやフライドポテトなどに最適です。

夏休みには、市内の小中学生によるじゃがいも掘りと試食の体験が毎年行われており、栄養満点のじゃがいものおいしさに大喜びしているそうです。

南相馬市の風土が育んだじゃがいもを利用したお菓子を、是非味わってみてください。(企画部)



収穫したじゃがいもをコンテナに入れて工場に運びます

兵(つわもの)紹介

トマトで消費者との絆づくり

ならはまち さとうせいイチ
植葉町 佐藤晴一

植葉町で温室水耕トマト1.1haを栽培している「有限会社サンフレッシュならは」代表取締役佐藤晴一氏を紹介します。佐藤さんは、現在41歳。平成13年に設立された「サンフレッシュならは」で大玉トマトを主力に栽培し、最近では、消費者ニーズに沿った多様な色(赤、黄、緑、白、黒等)、大きさ、形状の国内外産35品種を生産・販売し、食生活に豊かさを提供しています。

佐藤氏は、野菜ソムリエの資格を有しており、全国の野菜ソムリエを招いて、多様な品種の食味、形状、色、調理法及び用途等について勉強会を実施するなど、専門家同士のネットワークづくりや野菜消費の拡大につながる活動を行っています。また、県内では、ベジフルコミュニティ福島の副会長を務めるなど、リーダー的な役割も担っています。

地元の幼稚園にトマトを贈呈し、園児に対してトマトの栄養分や健康づくり、体づくりについて説明を行うなど食農教育にも取り組んでいます。

トマトを材料とした加工品作りにも取り組み始めており、今後も益々の活躍が期待されます。

(双葉農業普及所)



トピックス

洪水期に備えてゲート操作・点検を実施

去る6月15日、浪江町室原の大柿ダムにおいて、洪水吐ゲートの全開操作と施設点検が実施されました。

ダムには5門の洪水吐ゲートが設置されており、昨年秋から今春の農業用水を貯留するために閉めていましたが、今年の代かき・田植えも無事終わり、これから梅雨などの洪水期に備え、ダムの安全性を確保するためゲートの全開操作を行いました。

当日は、県、土地改良区や関係市町の職員32名が参加、作業の安全を祈願した後、ヘルメット、安全帯等を装着して洪水吐ゲートの点検、清掃を行い、ゲートを最上部まで全開して作業を終了しました。

又、ボートによる湖面巡視や監査廊に入っの施設点検等も併せて実施、当地域の農業用水の安定供給に欠かせないダムへの感謝と施設管理の重要性を強く感じた一日となりました。
(大柿ダム管理事務所)



洪水吐ゲート全開操作風景

おしらせ

「ほっと」スペースのご案内

～道の駅そうま～

森林環境税を活用した事業の一つとして、森林林業部では、森林を手入れする際に発生する材を利用した木製品の導入・展示を行っております。

このほど、相馬市のご協力により、「道の駅そうま」にベンチとイス、テーブルが設置されました。

これらの木製品は、相馬地方産のスギ材で製作されており、木のぬくもり、肌ざわり、色合いを直接感じ取ることができるものです。

ドライブの途中「道の駅そうま」にお立ち寄りになった際には、この木製ベンチで、「ほっと」ひと息ついてみてはいかがでしょうか。
(森林林業部)



道の駅そうまに設置されたベンチ

農家民宿開業のための 出前講座を開催します!!

農家民宿は、グリーンツーリズムを推進するための宿泊や体験等の拠点施設として重要な役割を担っており、県としても、農家民宿を積極的に活かした受け入れ体制整備を推進しています。

農家民宿に関心のある方達や開業を希望する方達を対象に、出前講座を開催

していますので、講座を希望される方は以下にご連絡ください。



(問い合わせ先)
福島県相双農林事務所 企画部
電話0244-26-1153

コラム

山里の遊び

子供の頃、よく山で遊びました。木に登って枝を揺すったり、藤つるを切ってターザンのまねをしたり、木の枝で剣を作りチャンバラをしたり毎日の生活でした。テレビがまだなく、平地には作物が植えてあるので自然と山遊びが日課になったのだと思います。山菜、キイチゴ、アケビ、キノコ、栗、イナゴ、ドジョウ取りもよくやりました。桑の実を食べて口のまわりを真っ赤にしてからかわれていたことも懐かしい思い出です。

今は、その山里も、車社会の進展や農業の機械化により生活の利便性は格段に向上しました。その反面、少子高齢化の進行と子供の生活が変わったせいで戸外で遊ぶ子供の姿は見かけなくなりました。また、最近では、耕作放棄地が目立つようになり雑草が生い茂り、生家に帰る度にそれを横目に見ながら家の周囲の草刈りに追われており、自然の猛威を強く感じています。

自然との共生という言葉が最近見かけますが、私にとっての自然は、草刈り、草むしりのときは戦いだけ、収穫

福島県相双農林事務所 次長兼総務部長 本田実

穫の時は、疲れとともに充足感を味あわせてくれる、山道を歩いているとぼけたわらびや、タラノメ、キイチゴの枝について目がいってしまう、そんなかなり食に偏ったイメージなのです。

今の子供達は、自然をどのようにみているのでしょうか。私は、子供達に山遊びを体験して欲しいと思うのです。木によじ登ったり、木を切り倒したり、爽快だけど危険という面もあるでしょうが、自然相手に身体を使って手応えのある経験を重ねる中で仮想体験からは得られない様々な力が養われる気がするのです。

さてさて、そういう私にも子供がいるのですが、これからどうやって連れ出して体験させたら良いものか。昔、山で遊んで培ったはずの知識、経験、体力が、今問われております。



ご意見・ご感想・PRしたい情報などをお寄せ下さい。

福島県相双農林事務所 企画部

〒975-0031 福島県南相馬市原町区錦町一丁目30番地

TEL:0244-26-1153 FAX:0244-26-1181

ホームページアドレス <http://www.pref.fukushima.jp/norin-sousou/>

